

J E T O B、都道府県別ネットワークに興味 ～ 帰国前研修会から～

企画調整課

2月21日から23日までの3日間、「JETプログラム帰国前研修会」が横浜市内で開催されました。この研修は、今年の夏にJETプログラムを終了する予定の参加者を対象に、帰国後の第二の人生に役立つ情報を提供するために開催したものです。

この研修では、参加者の希望の多い18業種について、講師である業界関係者から業務内容や就職活動時の留意点などについて、具体的な事例を交えたプレゼンテーションを行っていただきました。

講師のJETOB、都道府県によるOB活用にも興味

講師の中には、JETのOBで母国などで活躍している方々もいらっしゃいました。その中の1人、ライアン・ハートさんは1998年に来日し、千葉県内でALTとして活躍され、現在はシアトルで生命保険会社に勤務されています。今回は「就職活動のための自己研鑽」というテーマで、就職活動で成功するためには日々、自分自身を高める努力が必要であることを、ご自身の経験を踏まえて話してくれました。

ライアンさんに、最近日本の自治体、特に都道府県の中でJETのOBとのネットワーク化による連携強化を積極的に検討する動きがでてきていることについて伝えると、「自身も機会があれば是非協力したい」と話してくれました。都道府県(ライアンさんの場合は千葉県ですが)からのメルマガを受け取るだけでなく、メルマガの原稿を書きたいとも言ってくれました。また、地元紙がJETのOBを紹介する記事を掲載してくれても面白いのではないかと話していました。ただ、「どれだけ多くのOBに参加してもらうかが重要ではないか」とも指摘してくれました。

講師の中にはまた、日本と関わりのある仕事をされているOBの方もいらっしゃいました。日系企業の現地法人の雇用状況について話してくれたジャスティン・メインジャーさんは日本企業のアメリカ法人に勤務する傍らNPO法人「CEPEX」(<http://www.cepex.org>)の運営にも参画し、日米間の文化・個人

交流のサポートなどを行っています。ジャスティンさんは2001年から03年まで群馬県内のALTでした。また、初代JETとして埼玉県内のALTだったマルゴ・ウィッテルさんは、オーストラリアで日本語講師として活躍中で、多くの教え子が日本に来て、オーストラリアと日本との交流に貢献しています。

インフォメーション・フェアに日本企業も出展

また、22日にはAJETが中心となってインフォメーション・フェアをアレンジしてくれました。今年目についたのは、日本企業がブースを出展してくれたことです。

いずれも国際ビジネスを展開する大手企業ですが、日本に複数年居住し、日本のビジネス風土などにもある程度精通しているJET参加者に自社のPRをされたいというお考えから参加くださったようです。この背景には、経済の完全なグローバル化により日本企業の外国人採用意欲が最近とみに高まっているということもあるのかもしれませんが。

今夏に帰国予定のJET参加者の中には、終了後は日本での就職を希望する方々もいて、これらの企業のブースは盛況でした。何人かのJETに感想を聞きましたが、「非常に興味があり、是非もっと話を聞いてみたい」という声が多かったのが印象的でした。

1対1の進路カウンセリングも実施

さらにこの日は、プレゼンテーションと並行して、進路決定に向けたカウンセリングも行い、抽選に当たった150人程度が参加しました。カウンセラーは15名、うち12名がJETのOBで、パーティションで区切ったブースで1対1で20分間、進路相談を行いました。JET参加者の方々のアフターJETでの成功についてもお祈りしたいと思います。

追伸

なお、この研修中、ニュージーランドで地震がありました。

関係するJET関係者の方々に心からお見舞いをしたいと思います。